

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	人形劇公演開催事業	会計	一般会計	事業No.	792	施策順No.	27-005
		事業種別	政策・重点	予算科目	10-5-7-13-10		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	文化会館		
施策	27 文化芸術の振興			事業期間	開始	21	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	①飯田市民、②地元人形劇団					A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない						
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)						19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		①飯田市の人口(人)								105691	105036	107000	
		②地元人形劇団数								47	47	47	
意図	①フェスタ以外の時期にも人形劇を鑑賞できるようにする。公演の企画・運営を主体的に行うようになる。 ②人形劇を上演できるようにする。												
対象をどう変えるか	対象を	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)					19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		①フェスタ以外に人形劇を観劇した市民の割合(%) (観劇者数/人口)							2.7	2.5	3.2	5	A
		②人形劇公演事業で上演した劇団数							10	12	17	25	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		観劇者数については、保育園・小学校等での巡回公演が定着し、効率的な配置によって同じ予算内で多くの公演を実施できた。また、りんごっこ劇場や森の紙芝居劇場など地域の劇団の定期的な活動が定着し、出演団体数、観客数共に増加したことにより目標を達成した。											

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>いいだ人形劇フェスタ開催期間以外に市民が人形劇を鑑賞できる機会を提供するために定期的に人形劇公演等を開催する。幼稚園・保育園・小学校等など、教育・保育の現場へ人形劇を派遣し、児童が人形劇を鑑賞する機会を創る。人形劇自主事業実行委員会へ負担金を支出し、実行委員会が事業の企画運営を行う。</p> <p>1. 人形劇定期公演 ・人形劇場、子どもの森公園、竹田人形館、川本人形美術館ほかの会場で人形劇公演及び人形アニメーションの上映会を開催する。 ・地元アマチュア劇団の公演や、子どもの森公園等他団体との共催公演に取り組む。</p> <p>2. 人形劇巡回公演 ・小学校・幼稚園・保育園への人形劇団を派遣し公演を行う。</p> <p>【平成23年度特殊事情(増額要因)】 竹田人形館、川本美術館の入館者は年々減少しており、議会・監査からも指摘されている喫緊の課題である。しかし、固定的な展示事業と、こ</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<p>人形劇自主事業実行委員会へ負担金を支出</p> <p>1 人形劇定期公演の実施</p> <p>2 人形劇巡回公演の実施</p> <p>(1) 小学校巡回公演</p> <p>(2) 幼稚園保育園巡回公演</p> <p>3 新たな組織・新たな取り組みについての検討</p>	<p>1. 定期公演 公演回数 観劇者数</p> <p>2. 巡回公演 公演回数 観劇者数</p> <p>3. 検討会議開催数</p>	<p>7回</p> <p>1180人</p> <p>25回</p> <p>2190人</p> <p>5回</p>
23年度実施計画	<p>人形劇自主事業実行委員会及び巡回公演実行委員会へ負担金を支出</p> <p>1. 人形劇の定期公演・鑑賞事業等の開催</p> <p>(1) 地元劇団による人形劇定期公演</p> <p>(2) 人形劇鑑賞事業</p> <p>(3) 川本美術館での人形アニメーション特別上映会</p> <p>2. アウトリーチプログラムの実施</p> <p>(1) 小学校・幼稚園・保育園での人形劇巡回公演</p> <p>(2) 竹田人形館・川本美術館ほかの会場を活用したアウトリーチプログラム</p> <p>3. 実行委員会の開催 事業企画の検討ほか</p>	<p>1. 定期公演・鑑賞事業</p> <p>(1) 定期公演の回数</p> <p>(2) 鑑賞事業の回数</p> <p>(3) 特別上映会の回数</p> <p>2. アウトリーチプログラム</p> <p>(1) 巡回公演の回数</p> <p>(2) アウトリーチプログラムの回数</p> <p>3. 実行委員会</p> <p>(1) 実行委員数</p> <p>(2) 会議等の回数</p>	<p>1. 定期公演</p> <p>(1) 回</p> <p>(2) 回</p> <p>(3) 回</p> <p>2. 巡回公演</p> <p>(1) 回</p> <p>(2) 回</p> <p>3. 実行委員会</p> <p>(1) 人</p> <p>(2) 回</p>

3 事業コスト

事業費	特定財源 国庫支出金 県支出金 起債 その他 一般財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	
		計 (A)	1,330	1,330	2,300		
		正規職員所要時間		150			
		臨時職員等所要時間		150			
		人件費計 (B)		698			
トータルコスト A+B			2,028				

4 事業に対する市民や議会の意見

<p>・フェスタ期間以外の人形劇場の有効活用など、人形劇の定期公演を充実させることの要望は議会、フェスタ関係者から強い。</p> <p>・巡回公演については、良い事業であるので続けてほしいとの学校・保育園からの意見がある。特に小規模な保育園・小学校では単独で劇団を招聘することが難しいため、この事業への参加希望も多い。</p> <p>・映像を文化という視点を持って活動していく必要があり、子どもを対象とした事業にも展開していく必要がある。(基本構想基本計画推進委員会からの提言)</p>
---

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①いつでも誰でもどこでも気軽に親しむ、②自己表現の機会が得られる、③文化活動を主体的に担う	施策の成果指標又はムトス指標	文化芸術活動に無縁な生活を送っている人の割合(%・減らす) 文化創造活動に自ら主体的に関わっている市民の数
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	人形劇フェスタ期間以外に様々な会場で人形劇公演を行うことや、保育・教育の現場に劇団を派遣して公演を行う巡回公演により、市民が、日常的に人形劇に親しめている。また、りんごっこ劇場、森の紙芝居劇場など地域の劇団が主体的に取り組む公演を支援することにより、市民が自己表現の機会を得るとともに、文化活動を主体的に担うことにつながっている。		
	後期に向けた課題	現在、りんごっこ劇場、森の紙芝居劇場は年1回のみであるため、市民が主体的に企画・運営する公演を定期的に行うことができるよう支援することにより、市民が日常的に人形劇に親しめる機会を増やす必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	より多くの学校・保育園で巡回公演を実施できるように複数校(園)が1カ所で集まっての上演や、日程を合わせての実施を行った。りんごっこ劇場、森の紙芝居劇場、保育士の人形劇発表会など、地域の劇団が主体的に公演を企画・運営できるように支援した。		
	後期に向けた課題	広報を充実させ、より多くの市民に興味を持ってもらえるようにする必要がある。より多くの地元劇団等が主体的に企画運営できるよう仕組みづくりを支援する必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	1回の劇団招聘で複数会場で公演を実施できるような工夫を行った。チラシ等のデータ作成を職員や地元劇団が自ら行うことで制作費を削減した。		
	後期に向けた課題	年間計画を立てることによって複数事業を合わせて広報することによりコストを削減出来る。巡回公演と定期公演、創造支援事業と定期公演を組み合わせることで劇団招聘のためのコストを削減できる。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益者は観劇者である。観劇代は、いいだ人形劇フェスタの参加証ワッペン代金や有料公演価格とのバランスや、教育や保育の一環として位置付けられていることなどを考慮して設定しており適切である。市は負担金を支出しているが、観劇者が適正額を負担した上で不足する額を負担しているものであり適切である。また事務局として、市民主体の実行委員会が主体的に企画運営するための必要最小限の支援を行っており適切である。		
	後期に向けた課題	今後、地元アマチュア劇団による公演の割合を増加させていく予定であるが、鑑賞者の負担をどの程度に設定するか、プロ劇団の公演やフェスタの有料公演とのバランスなども考慮して、慎重に検討する必要がある。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①主体は市民が構成する実行委員会と上演する劇人である。実行委員会は劇団の選考や公演の企画実施を担い、劇人は人形劇を上演した。 ②市は実行委員会へ負担金を支出するとともに、市民及び劇人からの提案を受け、実施できるように調整した。		
	後期に向けた課題	近年、実行委員会組織が形骸化し、市民の主体的な企画・運営が弱体化してきている。市民主体の新たな実行委員組織を早急に確立し、市民自らが楽しみながら人形劇公演の企画、運営を担えるようにする。また、地元人形劇団が上演者としての役割を積極的に担えるような連携を強めていく。		
全体を通じて	4年間の振り返り	多くの市民が人形フェスタ期間以外にも人形劇に親しめることを目的として、人形劇の定期公演と保育園、小学校などへの巡回公演を実施してきたが、近年、公演数が減少してきている。		
	後期に向けた課題	人形劇に関わる多様な主体の協働による新たな実行組織を確立し、地元人形劇団活動の活発化や、人形劇場、川本人形美術館、竹田人形館それぞれの機能や特徴を活かした上演や企画事業を市民が主体的に担えるように支援する。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	--